

The 世界遺産 in Takasaki

渡部孝男の欧州・世界遺産巡り

～上野三碑の遺産登録に刺激を受けて～

2017年3月に中欧（チェコ、オーストリア、スロバキア、ハンガリー）、12月にドイツ、スイス、フランス、ベルギーを巡ってきました。これらの国には数多くの世界遺産があります。

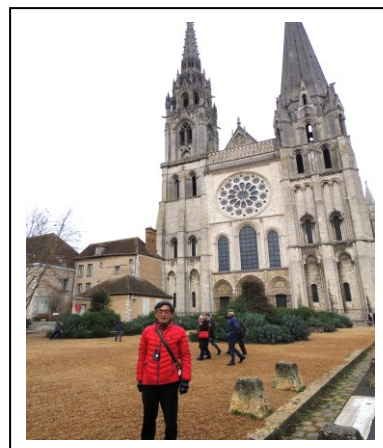
30箇所以上もある、フランスの2ヶ所を紹介いたします。

～シャルトル大聖堂、そして多胡碑との共通性は・・・～

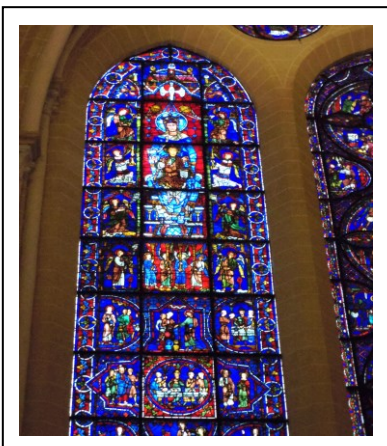
パリからモンサンミッシェルへ行く途中にシャルトル大聖堂に寄りました。世界遺産であることは知っておりましたが、そんなにすごいのかなという気持ちでした。バスから降りて、まずその大きさに驚きました。

大聖堂には2本の尖塔があり、右が12世紀に作られたロマネスク様式で105m、左がフランスのゴシック様式（115m）の最高峰と称され、16世紀のものです。シャルトルは、古くからフランスにおける聖母マリア信仰の中心地で、「サンクタ・カシミア」といわれるマリアがキリスト生誕前に身に着けていたとされる聖衣を所蔵しており、巡礼教会となっています。

内部に入りステンドグラス（左下写真）の美しさに感動しました。ステンドグラスの宝庫で、176の窓を飾っており2,000㎡もあります。



大聖堂にて



特に、澄んだ青色はシャルトル・ブルーと呼ばれ、イエスを抱くマリアの「青い聖母の窓」や扉口のバラ窓（聖ヨハネの黙示録）には見惚れました。長い旅路の末、大聖堂に辿り着いた巡礼者たちは聖母像を仰ぎ見て歓声を挙げ、いつまでも祈りを捧げたことでしょう。

このステンドグラスは旧聖堂の火災や16世紀の宗教戦争でも損失を逃れ、さらに第二次世界大戦中はドイツ軍の爆撃から守るために疎開されていたそうです。

高崎の「多胡碑」も戦後に地中に埋めて守ったという記録がありますが、大切な文化財は地域住民や信仰者によって守られてきた共通性に感動を覚えます。

～みんなの世界遺産・モンサンミッシェル～

世界遺産で行ってみたい所で、常に上位に入るのが「モンサンミッシェル」です。私も同様に、「海上のピラミッド」と言われる城のような特異な景観に神秘性を感じるからです。シャルトルから300キロ4時間以上も要して、やっと夜8時モンサンミッシェルに着きました。対岸からシャトルバスで入口まで行くと、真っ暗な海の中にライトアップされたモンサンミッシェルが神秘的に浮んで見えました。それは「海に浮ぶ世界遺産」と表現されますが、湾の中の島（岩山）に建設された修道院です。708年、オーベル司教の枕元に大天使ミカエルが現れ、礼拝堂が建てられ、その後修道院が建てられました。百年戦争では要塞として、フランス革命中は牢獄として使用されました。

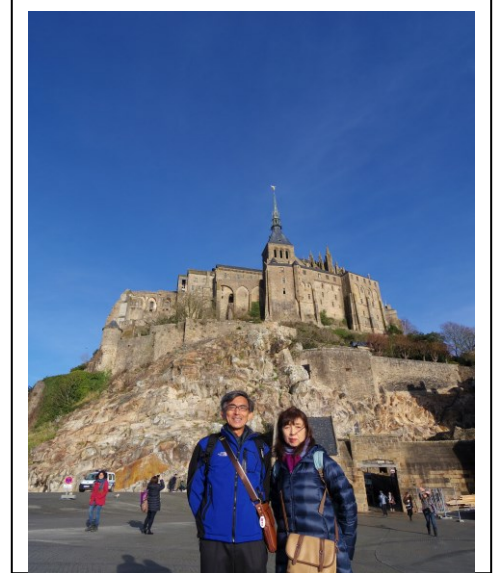
現在は修道院でありながら、観光客が内部を見学できるようになっております。

ミカエルはフランス語では「ミッシェル」、「モン」は山、「サン」は聖なので、モンサンミッシェルは聖ミカエルの山ということです。尖塔には大天使ミカエルの像が黄金色に輝いています。

宿泊ホテルはモンサンミッシェルの島の中にある数少ないホテルで、ライトアップされたモンサンミッシェルや迷路のような坂道、城壁、周りを囲む海を見ることができました。

参道グランド・リュエを通り、長い坂道や階段を上り教会へ入ります。そして、修道院はピラミットのような三次元迷路のように複雑で、狭い岩山に建てたため聖堂は地下から上層まで3層構造でした。

憧れのモンサンにて



修道院の居住空間は「驚異」と呼ばれる建物で、3層になり3階には食堂、中庭と回廊があり、食堂は59もの小窓で穏やかな光に満たされ、司教の説教のもと、修道士たちが無言で食事をしている様子が浮んできました。そして、回廊では修道士たちの瞑想の姿が・・・。

残念なことに、モンサンミッシェルへの観光用の道を作ったため海流の向きが変わり川の運ぶ土砂が堆積し、陸地化が進んでいました。海の孤島のイメージからは遠いもので、保存と観光開発の難しさを考えさせられました。

～そして、想いは地元の上野三碑へ～

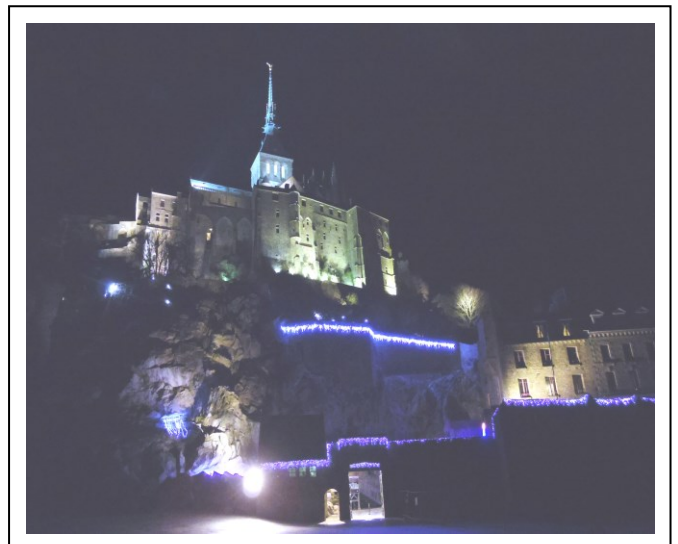
欧州の世界遺産は、いずれもそれぞれの居住空間と共有しており、その延長線上に観光地化が進んでいるだけに訪れる人々を包み込んでくれる要素も多岐に亘っております。

そうした観点からすると、上野三碑にも1300年もの時空に触れ、その先人の叡智に学ぶ機会提供を図りながら、人々の共通の財産を継承する場に創りあげていくことが求められているかと思えます。

そこには、次代を担ってくれる青少年の地域愛に支えられた学習に期待するところが大きいかと思えます。同時に、その決意を「2号」に寄せてくれた児童・生徒には力をもらっております。

高崎市では教育プロジェクト等の提言を踏まえて、児童・生徒の遠足等の課外学習としての活動機会も考察中であり、その対応には多様な教育効果が膨らんでおります。

ライトアップのモンサンミッシェル



あとがき

渡部孝男氏は高ユ協・青年部長、青少年キャンプ部副部長をはじめ、高崎市生涯学習推進員としても活躍中で、金井澤碑に程近い城山町に居住しており、その世界遺産登録推進活動への取り組みには力が入っております。そこには、次代を担ってくれる児童・生徒が上野三碑はもとより、地域遺産の学習活動を通して、時代を超越した先人の想いに学び、自分の町に誇りを持ってその活動を引継いで行ってほしいとの願いがありました。それだけに、このたびの世界遺産めぐり紀行からはその想いが強く感じられました。(相原)